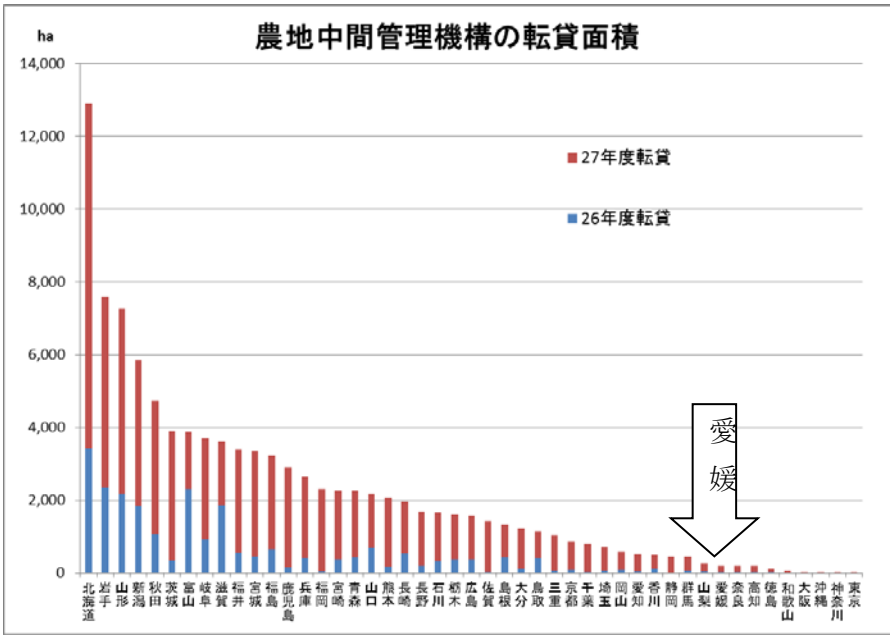
愛媛大学大学院農学研究科　研究シーズ集（研究者情報）

氏名	椿　真一	**専　　攻**	食料生産学
		コ　ー　ス	食料生産経営学
職名	准教授	**専門分野**	農業政策
メールアドレス	tsubaki.shinichi.to@ehime-u.ac.jp	**その他連絡先**	
研究課題	樹園地地帯における農地中間管理機構の効果と課題		
キーワード	農地市場、農地中間管理機構、柑橘農業、		

研究内容：

担い手経営体への農地集積を進めることが主要な政策目標となる中で，農地中間管理機構による農地利用調整が樹園地の農地流動化に与える効果，影響を明らかにし，樹園地の農地流動化の促進条件を解明することを目的としています．

平成 26 年３月に 47 都道府県で農地中間管理機構が発足しました．農地中間管理機構の初年度実績は，それ以前にあった農地流動化に関する制度の実績を上回る成果となりました．しかしながら，農地流動化が進展している地域は主に水田農業地帯であり，愛媛県などの果樹農業が盛んな地域では農地中間管理機構による農地流動化は進んでいません．樹園地で農地中間管理機構による農地利用調整が進展していない要因は何か．そこには水田農業地帯の取り組みとは異なる樹園地ならではの農地利用調整の実施体制（人員配置や業務体制）や制度の運用（目標設定や経済的誘因）が求められているからだと予想されます．それらを明らかにし，樹園地の農地流動化を促進させる条件を明らかにすることが研究の目的です．



これまでの研究は東北の水田農業地帯を対象として農地流動化の問題をあつかってきました（椿真一「農地市場における農地中間管理機構の効果と課題」『農村経済研究第 34 巻第１号』東北農業経済学会，p96～105，2016 年、椿真一「農地中間管理機構を活用した担い手への農地集積の現状と課題，方策」『農政調査時報 2015 春 No.573』全国農業会議所，p23-32，2015 年）。こうした研究をさらに発展させるべく、新たに研究領域を広げたいと考えております。

提供可能な資源・技術・その他

農業構造改善基礎調査、地域振興計画づくりのサポート

プロジェクト研究希望テーマ

農地流動化における公的機関の役割と課題に関する研究